

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡Ⅸ

長野県佐久市岩村田円正坊遺跡Ⅸ発掘調査報告書

2011.3

小林建設工業株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡Ⅸ

長野県佐久市岩村田円正坊遺跡Ⅸ発掘調査報告書

2011.3

小林建設工業株式会社
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は、小林建設工業株式会社が行う社屋新築工事に伴う枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 小林建設工業株式会社
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区 (I E O 区)
佐久市岩村田字円正坊1296- 1 外
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成22年9月17日～平成22年9月21日
整理調査 平成23年2月1日～平成23年3月25日
調査面積 30㎡ (開発面積667.61㎡)
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭。
7. 遺構の実測図作成は赤羽根充江・磯貝律子が、遺物実測図は堺益子・田中ひさ子・柳沢孝子・広瀬利恵子・狩野小百合が担当し、トレースは副島充子が行った。
8. 本書の編集・執筆は、林・佐々木が行った。
9. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址-H、溝状遺構-Mである。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。
住居址・溝状遺構 1/80 土坑 1/60 土器 1/4
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版「新版 標準土色調」に基づいた。
5. 調査区グリットの、間隔は4×4mに設定した。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過…………… 1
2. 調査体制…………… 1

第Ⅱ章 遺構と遺物…………… 2

- 写真図版…………… 5

抄 録



第1図 円正坊遺跡区位置図 (1:50,000)

第Ⅱ章 遺構と遺物

H1号住居址

本址は調査区の南西隅から検出され南・西部分は調査区域外に伸びる。M1号溝状遺構に切られる。

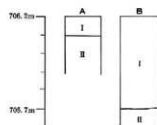
規模は検出北壁3.6m・検出東壁2.6m、壁高は最深10cmを測り、主軸方位はN-7°-Eを示す。カマドは北壁の中央に粘土と火床前面にある焙結凝灰岩により構築されていたと思われる。厚さ5~15cm、幅20~25cm、長さ40~55cmの焙結凝灰岩3個が放置されていた。ピットは2基検出されたが、位置からP1は主柱穴となろうか。敲き床下・M1下から検出された。P1は径35cm深さ45cm、P2は長径40cm短径32cm深さ38cmを測る。床は堅く敲き締められ平であった。出土遺物には、土師器と石製模造品があり、須恵器は皆無であった。カマド火床付近から多く出土。9~12は坏、須恵器坏蓋模倣の10、浅い丸底から長い口縁部が外反し口縁部と底部の境に稜を有す9などがある。9・10・12は内面黒色処理される。1と2の壺は接合部が断定できず別図にしたが、同一個体である。外面口縁部から底部境まで内面口縁部丁寧にヘラミガキされる。甕は大型の5小型の3がある。13は2.7cmの小ぶりな片側穿孔される勾玉の滑石製模造品である。

これらの出土遺物は、聖原遺跡の時期区分古墳時代Ⅲ期6世紀中葉~7世紀初頭に比定されよう。

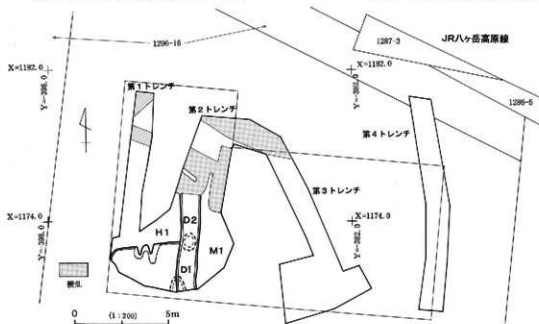


第3図 円正坊遺跡区調査全体図 (1:800)

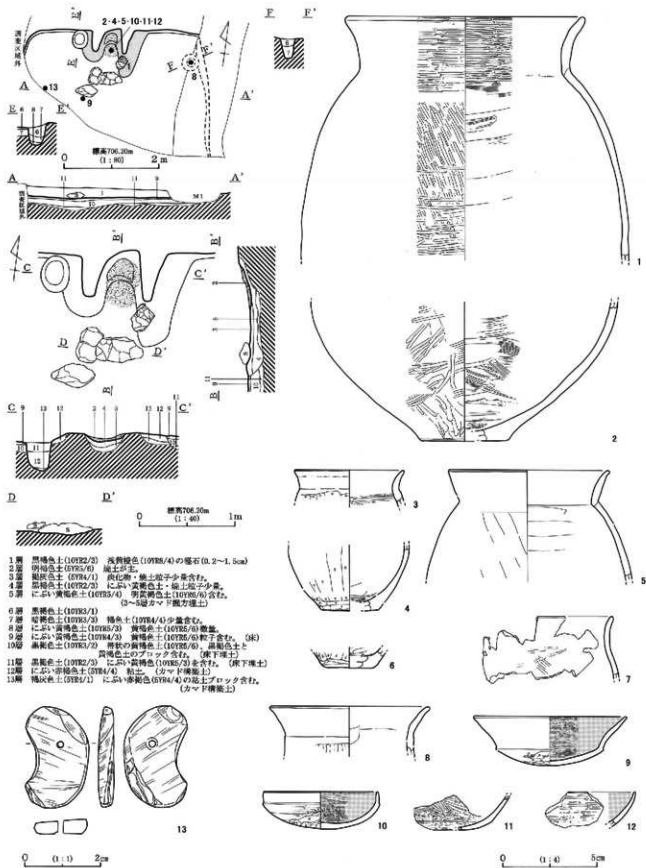
Ⅰ層 築地層
Ⅱ層 赤褐色土(7.5YR5/6)
灰白色土(7.5YR5/6)



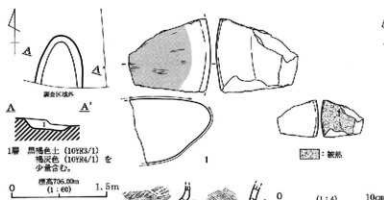
第4図 円正坊遺跡区上層模式図 (1:10)



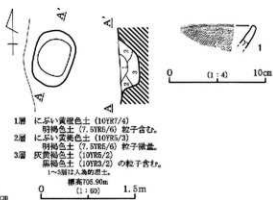
第5図 円正坊遺跡区調査全体図 (1:200)



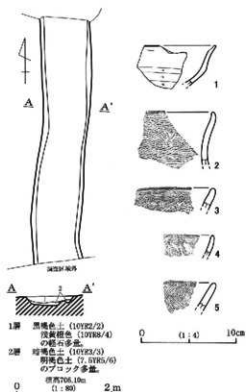
第6図 H1住居址及び出土遺物実測図



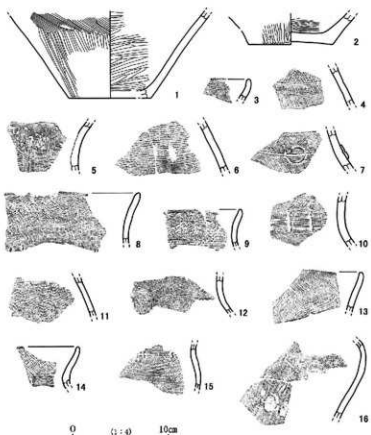
第7図 D1号土坑実測図および出土遺物実測図



第8図 D2号土坑実測図及び出土遺物実測図



第9図 M1号溝状遺構実測図および出土遺物実測図



第10図 遺構外等出土遺物実測図

D1号土坑

本址はH1およびM1より古い。長軸検出部0.8m短軸0.74m深さ20cm、断面逆梯形。主軸方位Nを指す。台石と弥生壺・甕小片、土師器甕・非ロクロ成形黒環片が出土しているが時期は不明、古墳時代後期H1号住居址が下限である。

D2号土坑

本址はM1より古い、H1との重複関係は明瞭でない。長軸0.9m短軸0.64m深さ35cm、楕円形を呈し断面逆梯形。覆土は、人為的な堆積状況であった。主軸方位N-6°-Eを指す。獣骨(馬?)・弥生壺・甕小片、土師器甕・非ロクロ成形環が出土しているが時期は不明。



調査区全景 北方より



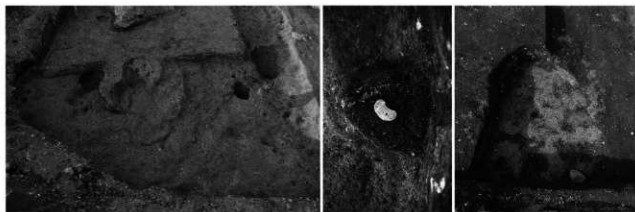
H1号住居址 全景



H1号住居址 カマド



H1号住居址 カマド掘り方



H1号住居址 掘り方

H1号住居址遺物出土状況

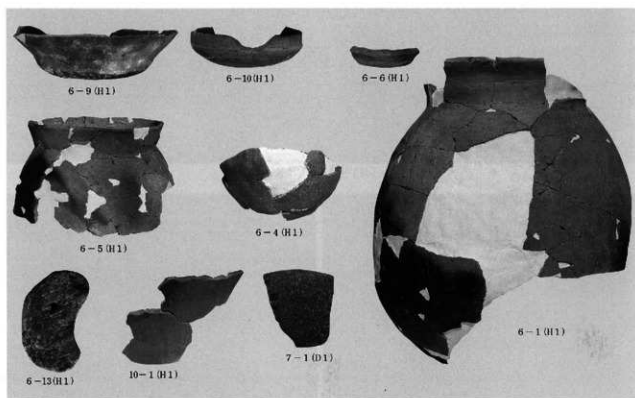
D1号土坑



D2号土坑

M1号溝址

M1号溝址
重機による表土削平



H1号住居址・D1号土坑出土遺物

M1号溝状遺構

本址はH1・D1より新しい。検出部長5.12m幅0.94m～1.06m深さ16～24cm、断面は、東側に凸凹が見られるが総じて逆梯子形。南側に伸びており、円正坊遺跡ⅤのM2号に繋がるものと思われる。

遺物は1の須恵器坏蓋模倣土師器坏片や土師器高坏片・甕片、2～5の弥生後期甕・鉢片が出土しているが、時期は不明である。上限はH1号住居址を切っており6世紀中葉～7世紀初頭になる。

第1表 円正坊遺跡Ⅴ出土遺物一覧表

No.	種別	器種	法 製			成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		備 考
			口径(長)	底径(幅)	器高(深)	内 面	外 面	
6-1	土師器	豆	(25.3)	—	<25.8>	口縁部ヘラミガキ、 胴部ヘラナデ(交互)	ヘラミガキ	H1 同軸完全実測 2と同一器体 カマド内・底
6-2	土師器	甕	—	3.4	<14.8>	ヘラナデ(交互)	胴部ヘラナデ→ヘラミガキ、 底部ヘラミガキ	H1 同軸完全実測 1と同一器体 カマド内・底
6-3	土師器	甕	(11.8)	—	<3.9>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ(交互)	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	H1 同軸完全実測
6-4	土師器	甕	—	(5.1)	<7.0>	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ	H1 同軸完全実測 カマド内
6-5	土師器	甕	16.9	—	<11.9>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	H1 同軸完全実測 磨耗 カマド 内
6-6	土師器	甕	—	(5.5)	<2.2>	ヘラナデ	胴部ヘラナデ→蓋部ヘラナデ	H1 同軸完全実測
6-7	土師器	甕	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	H1 破片実測 外面磨耗 磨耗
6-8	土師器	甕	(16.8)	—	<3.3>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(交互)	H1 同軸完全実測 P1
6-9	土師器	坏	(16.2)	—	5.2	ヘラミガキ→黒色砥粒	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 後ヘラミガキ	H1 完全実測 外面磨耗 カマド遺体面
6-10	土師器	坏	12.1	—	4.0	ヘラミガキ→黒色砥粒	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 後ヘラミガキ	H1 完全実測 外面磨耗 カマド
6-11	土師器	坏	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	H1 破片実測 カマド・底方
6-12	土師器	坏	—	—	—	ヘラミガキ→黒色砥粒	ヘラミガキ	H1 破片実測 磨耗 カマド
No.	器 種	基 材	最大径	最大厚	孔径	重量(g)	所 属	備 考
6-13	瓦玉(石製滑石)	滑石	2.70	1.7	0.4	0.2	2.79	H1 Ⅱ区床面
7-1	砂石	安山岩	<7.9>	<8.5>	<3.9>		<5.8>	D1 Ⅱ区床面
10-1	弥生	甕	—	(8.5)	<3.2>	ヘラミガキ	胴部多注文→ヘラミガキ、 底部ヘラミガキ	H1 同軸実測 P1・Ⅱ区底方
10-2	弥生	甕	—	8.5	<3.2>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ	H1 同軸実測

—不明、() 残存量、() 復元値、* 重量を意味す。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡Ⅴ

2011年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

Tel. 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所

報告書抄録

書名	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区
ふりがな	びわざか えんしょうのぼう
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第192集
編著者名	林 幸彦 佐々木 宗昭
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2011.3.25
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
遺跡名	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区 (IEON)
遺跡所在地	佐久市岩村田字円正坊 1296-1 外
遺跡番号	41
経度	X = 1174.000
緯度	Y = -394.000
調査期間	2010. 9. 17 ~ 2010. 9. 21 (現場) 2011. 2. 1 ~ 2011. 3. 25 (整理)
調査面積	30㎡
調査原因	社屋新築工事
種別	集落跡
主な時代	弥生時代・古墳時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址 1 軒 (古墳) 土坑 2 基 溝状遺構 1 遺物 弥生土器・土師器・勾玉
特記事項	